



Japan Institutional Gatewayは、日本を拠点とする研究者が、研究成果をオープンリサーチ形式で発表する場です。このゲートウェイでは、すべての成果がオープンアクセスで出版されるため、だれでも自由に読むことができます。また、プレプリントの利点（編集上のバイアスを排除した迅速な出版）と、品質と透明性を保証するメカニズム（招待制の公開査読、アーカイブ化、書誌データベースへの収録）を組み合わせたF1000Research出版モデルを採用しています。

<https://f1000research.com/japan-institutional-gateway>



論文投稿の新しいオプション

日本のオープンサイエンス出版ゲートウェイ

Japan Institutional Gateway (JIG) は、研究者向けのオープンサイエンス出版ゲートウェイです。JIGに参加している大学に所属する研究者（研究生含む）であれば、誰でも（どの研究分野でも）JIGへ論文を投稿できます。投稿した論文は、オープンアクセスにて出版され、査読を通過すれば、査読付き主要国際誌に出版した時と同様に、ScopusやPubMedなどの国際文献データベースに掲載されます（人文社会学の研究については、日本語でも出版可能で、英語論文と同じように主要データベースに掲載されます）。

JIGに出版する = オープンリサーチを実践する

JIGに論文を出版するということは、「論文がオープンアクセスになる」というだけではなく、著者（研究者）がオープンリサーチを実践している証明となります。投稿した論文は、査読前に一般公開され、研究データと共に公開査（Open Peer Review）が行われます。研究データと査読をオープンにすることで、従来の学術ジャーナルに出版するよりも、高い透明性と研究の再現性を確保します。

JIGは学術コミュニケーションを包括的にサポート

JIGでは、原著論文（Research Article）や総説（Review）はもちろんのこと、Protocol, Data Note, Policy Brief, Living Systematic Reviewなど、多様なArticle Type（論文種別）を出版できます。また、論文だけでなく、学会発表に用いたポスターやスライドなども出版可能で、論文同様に国際識別子DOI（Digital Object Identifier）が付与されるため、引用可能となります。

● JIGの特徴

- ・ 査読結果を待たずに研究成果を即オープンアクセスにて公開できる
- ・ 研究データをオープン化し、論文のみならずデータの二次利用が可能になる
- ・ 公開査読が行われるため、透明性を確保できる
- ・ 人文社会学分野においては、英語論文のみならず日本語論文の出版も可能

● F1000Research

JIGは、F1000Researchというオープンサイエンスプラットフォームの出版モデルを採用し、日本のための「ゲートウェイ」として開始しました。JIGに採用されている出版モデルは、世界有数の研究資金提供団体にも推奨され、世界各地の学協会、研究機関、企業も運用しています。迅速かつオープンな学術コミュニケーションを可能にする出版モデルを是非ご体験ください。

JIG説明会とAuthorWorkshopは下記のリンクからお申込み下さい。

Book a consultation slot with us (Japan) (<https://think.taylorandfrancis.com/book-a-consultation-jp/>)

出版前チェック

Pre-Publication Check

● 出版前チェックとは？

F1000では査読前に論文が出版されます。機関レポジトリに代表されるプレプリントと違うのは、Version1 出版前に出版前チェックがあることです。

- 1) 投稿後、初回チェックを行い、論文の不備があれば著者にF1000 Editorよりご連絡します。
- 2) Editorから連絡があったら著者は速やかに指摘された点を修正し再度投稿してください。
- 3) F1000ポリシーとガイドラインを満たしているかも確認されます。
- 4) Accept (通過)された論文は、出版準備のため制作段階に移されます。



● 実際のチェック項目 (データ以外)

Front Matter	Declarations	Back Matter
<input type="checkbox"/> タイトル	<input type="checkbox"/> 必要な許諾を得ているか	<input type="checkbox"/> 参考文献 bibliography
<input type="checkbox"/> 著者リスト	<input type="checkbox"/> Conflict of Interests 利益相反	<input type="checkbox"/> 図Figure
<input type="checkbox"/> 所属機関	<input type="checkbox"/> 資金提供	<input type="checkbox"/> 表Table
<input type="checkbox"/> Abstract (字数制限を守っているか等)	<input type="checkbox"/> 謝辞 Acknowledgements	<input type="checkbox"/> サブルメンタリー Appendices/ supplementary files
<input type="checkbox"/> Keywords		

<https://f1000research.com/for-authors/article-guidelines>

日本語論文(人文社会科学のみ)のガイドライン

<https://f1000research.com/gateways/japan-institutional-gateway/for-authors/article-guidelines?alternateLanguageView=true>

著者は、JIG 著者資格基準を満たし、編集チームからの連絡を受けるための個人メールアドレス(可能であれば機関名)を提供すること。

公開査読

Open Peer Review

● 公開査読とは何が公開されるのでしょうか

公開された身分

- ・ 査読者は名前と所属を提供する義務がある
- ・ 査読者は利害相反を明確にする義務がある



公開された査読の報告書

- ・ 査読者の報告書は論文と共に公表される
- ・ 引用可能且つレビューのメトリクスがある



公開された査読状況

✓ **APPROVED**
The paper is scientifically sound in its current form and only minor, if any, improvements are suggested

? **APPROVED WITH RESERVATIONS**
A number of small changes, sometimes more significant revisions are required to address specific details and improve the papers academic merit.

✗ **NOT APPROVED**
Fundamental flaws in the paper seriously undermine the findings and conclusions

査読者の知名度増加とクレジット

- ・ 共同の査読
- ・ ORCID ids
- ・ 報告書のためのDOI付与

● 公開査読

1. F1000では、基本的には著者の推薦した5名以上の査読者とF1000のアルゴリズムの組み合わせにより、適切な資格を持つ査読者を招待します。
2. 出版前チェックを通過し論文が決定すると、少なくとも5名の査読者候補の名前と連絡先を教えてください。査読者は著者とCOI (Conflict of Interest) 利益相反がないこと。同じ機関の研究者は査読者として推薦できません。F1000では利益相反をスクリーニングします。
3. 査読者のORCID IDが公開されます。査読者の仕事は査読者のORCID IDを通じてその研究に貢献したことを認められ可視化されます。また、共同査読も推奨されています。

→査読者評価の仕組み

→若手研究者が初めて査読にチャレンジできる仕組み

オープンデータ

Open Data

● Open Dataのメリット

- ✓ 信頼性の向上: 研究が再現可能であり検証可能であること
- ✓ 研究成果の認知度向上: 論文とデータセットの両方が他の人に発見される仕組み→不正防止と科学の健全性の確保
- ✓ 研究者のキャリアに与える影響: オープンデータの共有は発表した論文の引用回数を最大25%増加させるという統計があります

*Colavizza et al., <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0230416>

Five selfish reasons to work reproducibly

Florian Markowitz



● 何を研究データとするか

研究の基礎となるデータをオープンに公開し世界に共有することが重要ですが、研究データが実際に何を意味するのか共通認識を持つことが重要です。

「研究データ」は、研究デザイン(研究設計)に応じて研究プロセスのINPUTまたはOUTPUTのいずれかになるでしょう。しかしデータの形式は分野によっても異なります。研究デザインと研究分野の違い次第で色々なデータがあるでしょう。



スプレッドシートのデータセットはかなり一般的ですがデータは画像、ビデオ、音声記録などの形式をとることもある

東野 篤子 [人文社会系教授]

2020年はコロナ禍のため、せっかくプロポーザルがアクセプトされていた海外の学会がすべてキャンセル・延期となってしまいました。このため、英語論文を口頭発表しフィードバックを得て、査読付ジャーナルへの投稿準備を進めるといった通常のプロセスがストップしてしまい、困っていたところ、同僚が筑波大学ゲートウェイの投稿を勧めて下さいました。査読前の論文をウェブ上に掲載し、その後にコメントをもらうという筑波大学ゲートウェイは、私が主に論文を発表してきた海外学会の方式とも近く、すんなりとなじむことが出来ました。また論文を筑波大学ゲートウェイに投稿して掲載されるまでの期間、F1000社の編集チームが非常に丁寧なエディティングやフォーマティングを行ってくれたのも、大変ありがたいことだと思っております。

2021年3月2日に論文が掲載されてから、およそ1週間で、特段の宣伝をしていなくともページビュー数が100を超えており、研究成果発信のための非常に強力なツールであると実感しました。唯一のネックは投稿費ですが、今回は人社系による投稿費支援に採択していただけ、大変助かりました。コロナ禍における新しい研究発信形態のひとつとして、今後とも活用したいと考えております。

DOI: 10.12688/f1000research.51085.1

矢作 直也 [医学医療系准教授]

今回投稿させて頂きました論文は、これまでに5つの雑誌から掲載を拒否されてきた論文でしたが、筑波大学ゲートウェイではスムーズに掲載が決まり、レビューアからも高いご評価を頂くことができました。また、「この論文をぜひ読んで頂きたい」という方々をレビューア候補として編集部へ推薦させて頂き、結果的にそういう方々に実名でレビューして頂いたのも大変幸せな経験でした。「rejectされない安心感」「読んで欲しい方にレビューしてもらえる」この2つのメリットは非常に大きく、ちょっと病みつきになりそうです。

DOI: 10.12688/f1000research.27532.2

秋山 肇 [人文社会系助教]

新型コロナ対策について、日本国憲法の観点から研究しています。社会的関心の高いタイムリーな話題ですので、日本の一般の方にも読んでいただける日本語論文を即時的に発表したいと考えていました。また、自然科学の研究者も使用するF1000Researchの一部である本ゲートウェイに掲載されると、新型コロナを研究するグローバルな研究者にも、英文抄録を通して日本の法的な議論に触れていただけるため、意義があると感じ、本ゲートウェイに投稿しました。即時的に日本社会とグローバルな研究者双方に研究成果を発信できるのが、本ゲートウェイの魅力です。また、公開で査読が行われますので、恥ずかしくもありませんが、学生に論文執筆のプロセスを見せられるのもメリットだと思います。

DOI: 10.12688/f1000research.50861.2

伊藤 秀明 [人文社会系准教授]

筑波大学ゲートウェイに投稿した動機は迅速な査読体制と投稿者による査読者の推薦という形式に興味を持ったことにあります。これまでの投稿では、数ヶ月、長い時には数年、投稿しては査読者の評価を待つという受け身な姿勢を歯がゆく感じることもありました。筑波大学ゲートウェイでは、同じく査読者の評価を受けるという点は変わりませんが、論文が査読前から公開されることにより査読者のコメントも多様な研究者の一つであり、その評価を論文に反映させ、さらに深めていくということが可能になりました。これは投稿者による査読者の推薦も上記のような点を考える際に、世界中の研究者に投稿者が主導して意見を求めることができるという点で、これまでの受け身な査読体制とは異なる大きなメリットだと感じています。

DOI: 10.12688/f1000research.36372.2

問い合わせ先

Taylor & Francis Group

📍 東京都千代田区神田神保町1-54-4 JHVビル 9F

📞 お問い合わせ先：山之城(チルドレス) 智子

✉️ tomoko.yamanojo@informa.com

Taylor & Francis Group Business Development Manager (Japan)

筑波大学 研究戦略イニシアティブ
推進機構 研究マネジメント室

📍 茨城県つくば市天王台1-1-1 ILC棟2F

✉️ jig-f1000@un.tsukuba.ac.jp

☎️ 029-853-4434

